

## 園長のつぶやき⑧

### 「運動会でのスタンディングオベーション」

前号に続いて、小学校教員時代の思い出を振り返ります。小学校3校目の、特別支援学級担任のころのエピソードです。

6年生のR君は、入学1年生から特別支援学級在籍で、発語はないのですが、身振りや表



情で、コミュニケーションが取れる子どもさんでした。いたずら好きで、かけっこも速く、6年生の交流学級の子どもたちとは、鬼ごっこなどでよく遊んでいました。「Rくん、Rくん」と親しまれ、いつもクラスの真ん中にいて、仲間がいっぱいいました。

その小学校の運動会では、クラス全員参加のクラス対抗リレーがプログラムの最後にあり、一番盛り上がる競技でした。6年生は2クラスあり、A君は1組が交流学級でした。クラス全員参加でしたので、もちろんR君もリレーメンバーです。クラス対抗リレーではアンカーが華ですから、クラスで一番走力のある子が選ばれるのが常でした。2組は、クラスで一番足の速い子をアンカーに選びました。ところが、R君のいる1組はクラス全員で話し合い、アンカーをR君にしようと決めたのです。アンカーのR君にバトンを渡すまで、できるだけ2組を引き離して、R君にゴールテープを切ってもらおうと、作戦を立てたのです。運動会前日まで、各クラスともバトンパスの練習をがんばっていました。

さあ、運動会当日、いよいよクラス対抗リレーが始まりました。1組は作戦通り、みんなががんばって、R君にバトンを渡す前に、運動場半周ほど、2組を引き離しリードしていました。いよいよアンカー勝負です。1組も2組もアンカーにバトンが渡されました。1組のアンカーはもちろんR君です。2組のアンカーは6年生で1番足の速い子どもさんでした。半周あった1組との差はみるみる縮まっていきます。学校全員の子どもや職員、応援に来ている保護者、地域の方々、みんなが「がんばれー」「行けー」と大声で応援しています。いよいよゴール近くで、2人が並びました。腕を振り、歯を食いしばって2人ともゴールに飛び込もうとしています。そして、ゴールテープ寸前で、2組のアンカーがR君を抜き去り、テープを切ったのです。その瞬間、誰からということではなく、観衆のほとんどが自発的に立ち上がり、拍手をし始めました。支援学級の子どもに対して、一切手を抜かず、全力で正々堂々と勝負してくれた2組のみんな。R君にゴールテープを切らせようと全員で力を出し切った1組のみんな。その光景に観衆がスタンディングオベーションをしたのです。1組は勝負に負けたけど、みんなが輪をつくり、「R君がんばったね。」とお互いにハイタッチしていました。担任の私は涙が止まりませんでした。

R君は、小学校卒業後、特別支援学校に進学し、現在、就労支援施設で、元気に働いています。